

松くい虫被害の仕組み

現在の急激な松枯れの原因は、ほとんどがマツノマダラカミキリを媒介者とした、マツノザイセンチュウという線虫が引き起こしています。

一般に「松枯れ」と言われていますが、正しくは「マツ材線虫病」といいます。

マツノザイセンチュウ



※体長0.6～1.0mm

マツノマダラカミキリ



※体長18.0～30.0mm

松枯れのメカニズム

① カミキリ羽化脱出

マツノマダラカミキリの蛹は春から初夏にかけて成虫になり、やがてマツから飛び出します。カミキリが成虫になって脱出するまでの間にマツノザイセンチュウがカミキリの体に移ります。



マツノマダラカミキリ
成虫



② 線虫侵入

カミキリは5月から7月ごろにかけて健康なマツからマツへと飛びまわり、若い枝の樹皮を食べます。そのとき、カミキリの体の中にある線虫が、かみ傷からマツの中に入ります。



マツの若い枝を食べる
成虫



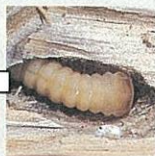
マツ枯れの メカニズム

⑤ 材内で幼虫越冬

卵からふ化したカミキリの幼虫は、夏の終わりから秋の間、樹皮の下で柔らかい皮を食べながら成長し、やがて材に深く穴をあけて、その中で越冬後、蛹になります。



蛹



幼虫



③ マツ枯れ

線虫はマツを急激に弱らせ、枯らしてしまいます。



④ カミキリ産卵

カミキリは線虫によって弱ったマツの樹皮にかみ傷をつくり、そこに産卵管を差し込んで卵を産みつけます。産卵は夏に行われます。弱ったマツが増えれば、カミキリが産卵できる木も増えていきます。



卵



産卵痕

